

若い力を活かした
地域モデル活動を試行し、
泉エリアを活気づける学生目線
からの地域づくりの課題検証

仙台白百合女子大学
地域生き活きプロジェクト

1 事業実施団体について

事業実施団体の概要

仙台白百合女子大学 地域生き生きプロジェクト

〈団体の目的〉

高齢化が進む地域での高齢者の孤立化や、地域住民のつながりの希薄化が顕著である。そのような現状において、高齢者だけに対象を絞るのではなく子どもに着眼点を置き、子どもへの活動を通して年齢に関係ない地域交流を行い、高齢化地域全体の活性化を図ることが当団体の目的である。

〈これまでの取り組み〉

2011

～2018年度 ゼミ活動として、大学周辺地域にてボランティアを行う。
例) 買い出し代行サービス、町内会行事の運営補助 等

2019

～2021年 学生団体として活動開始。仙台市泉区事業を活用し、これまでの活動に加え、町内会行事における一部企画・運営に携わる。
例) 夏祭り内でのクイズ大会実施、秋の交流祭にて出店運営 等

2 令和4年度の実施内容

(1) 課題

- 地域の高齢化が進み、子どもや親などの若い世代の人々の町内活動への参加も少ない状況が各地で見られる。若者同士の地域交流もなく、お年寄り目線の地域づくりだけが進むと、若者の住みやすい・子育てしやすい地域になるか本当に疑わしい。
- 近年はコロナ禍により町内行事の中止も多く、地域活動も停滞している。地域活動を盛り上げていくためには、若い世代の人たちが積極的に活動できる環境があると無いとでは大きな違いがあり、高齢者の多い地域ほど、若い力を取り入れたまちづくりを本気になって取り組んでいく必要がある。

(2) 事業の目的

最終的に目指す姿

- 若い力を町内の地域活動に積極的に取り入れていくことにより、高齢化した住宅地の活気回復をめざす。
- 外部の学生だけでなく、普段から地域で暮らす小中高生や親世代など若い世代と連携した若者目線からの地域づくりをめざす。

2 令和4年度の実施内容

(3) 令和4年度事業の目標

- 学生目線からの課題検証を幅広く行うため、地域に暮らす子どもから大人・高齢者など様々な世代から成るコミュニティも配慮し200名程度の住民意見やニーズを聞き出す。
 - 特に子育て世代などの若い世代からの意見は積極的に引き出し、モデルイベントに参加し学生等との交流を通じて町内活動などに継続的に関われる若者参加者を30名程度に増やす。
 - 学生側の活動者も私達団体組織の充実や他大学への働きかけなどを通じ、活動可能な協力者を30人までに拡大する。
- 審査会の意見を受けて、大学の先生や町内会の方々と相談しながらアンケート作成等を進めていくこととしている。

2 令和4年度の実施内容

(4) 事業の実施体制

氏名	役職	役割
高橋 美紅	団体代表	全体総括
小山 茜	団体事務局	調査のスケジュール調整
菊地 冬花	会計	事業費用の全体管理
佐藤 愛華	会計補佐	調査費用の進捗管理
小野寺 莉奈	活動メンバー	活動調査の分担役
小内 香音	活動メンバー	住民ニーズ調査の分担役
鈴木 果恋	活動メンバー	若者会議の分担役

協力機関

【町内会】

鶴が丘地区

【他団体】

ICP(Izumi Community Project)、仙台白百合女子大学のクラブ・サークルやゼミ

2 令和4年度の実施内容

(5) 事業スケジュールについて

- 6月 地域町内会等と準備協議
若者会議①
- 7月 若者会議②
- 8月 地域モデル事業の施行①(夏祭り)
アンケート、ヒアリング調査実施
- 9月 若者会議③
保護者へのアンケート調査実施
- 10月 地域モデル事業の施行②(秋の交流祭)
- 11月 地域モデル事業の施行③
参加者ヒアリング調査&集計
- 12月 地域課題の把握&整理
- 1月 今後に向けたアイデア検討
- 2月 若い力を活かす地域づくり提案
- 3月 事業のまとめ&活動報告

(6) 使用経費について

事業費総額	56万円
収入内訳	
仙台市助成金	50万円
団体自己負担	6万円
支出内訳	
・人件費	20万円
・アンケート印刷	11万円
・事務用品	10万円
・イベント活動費	5万円
・その他	10万円

3 令和4年度事業の実施状況

令和4年度事業の実施状況について

【学生提案の地域モデル活動①】

8月／鶴が丘一丁目町内会夏祭り
内容／子供向けゲームの企画運営
参加者／小中学生・親など60名

- 子供会の親と一緒にクイズゲームを制作
ステージ周りで親子と一緒に遊ぶ
- 中学生と一緒にスマホゲームを制作
QRコード使用のクイズで中学生と楽しむ

〈工夫した点〉

- ・出店と花火が中心だった夏祭りで、飲食無し・子ども達が楽しめる遊び中心で企画
- ・見ている周りも巻き込むようなゲーム進行

〈良かった点〉

- ・学生と30～40代の親御さんや中学生など様々な若者世代が交流しながら活動できた
- ・子供同士もクイズを通じて友達付き合いしている大人や年配者と一緒に楽しめた



2022年度鶴が丘一丁目町内会
夏の交流祭 中学生ゲーム
<問題1>



3 令和4年度事業の実施状況

令和4年度事業の実施状況について

【学生提案の地域モデル活動②】

10月／鶴が丘一丁目町内会秋の交流祭
内容／ハロウィン&スタンプラリー・クイズの企画運営
参加者／幼児・小学生・高齢者など100名

- 町内会役員と一緒に全体企画案を制作
ハロウィン&スタンプラリーコースの選定
- 地域住民と一緒にクイズポイントを誘導
学生がクイズを出し小学生・高齢者が楽しむ

〈工夫した点〉

- ・コロナ禍のため一点に人が集中しないよう
時間差でのゲーム開始。積極的な声掛け。

〈良かった点〉

- ・クイズを通じ子どもの親御さんや地域住民
との親しいコミュニケーションを育んだ
- ・皆と一緒に歩くことで若々しい気分になり
地域の健康的な活動に寄与できた



3 令和4年度事業の実施状況

令和4年度事業の実施状況について

【モデル活動についてのアンケート調査の実施】

夏祭りゲームについて住民参加者等へのQRコードを用いたアンケート実施。

○当日15～17時の2時間 ○中学生から60歳以上の住民対象 ○回答数31件

鶴が丘1丁目夏祭りアンケート調査

仙台白百合学生応援隊からのアンケート調査です。ご協力をお願いします！
今日、開催された夏祭りの第1部・子ども未来応援活動についてお尋ねします。
以下の問に対して最も適した答えを1つ選んで回答欄にご記入ください。

*必須

1. Q1. 第1部で企画したイベントは、子ども達にとって良いイベントになった。*

1つだけマークしてください。

1. そう思う
 2. そう思わない
 3. 分からない

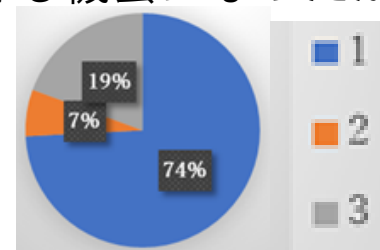
2. Q1の理由について具体的にお書きください



(質問) 今年の夏祭りは、年代が違う人とも交流できる機会になったか

(選択肢)

1. そう思う
2. そう思わない
3. 分からない



自由意見

- 学生が年配者と子どもたちの懸け橋になっている。これからも続けて欲しい。
○町内会は年配の役員が多く行事に参加しづらかった。学生の参加によって行きやすい環境が生まれた。

3 令和4年度事業の実施状況

令和4年度事業の実施状況について

【学生活動に関するアンケート調査の実施】

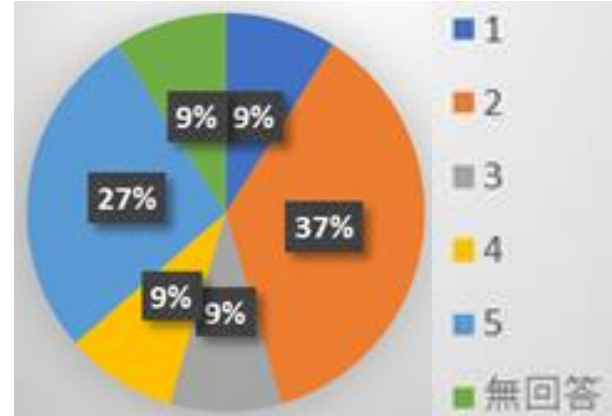
鶴が丘一丁目町内会の学習教室に参加する子ども保護者へのアンケート実施

○9月下旬～10月進行中 ○対象者30～50歳代の親世代 ○10月6日時点回答数9件

(質問) 親御さんから見てどのような変化がありましたか

【生活面について】

1. 挨拶できるようになった
2. 友達や地域の話題をするようになった
3. 明るくなった
4. 体力がついた
5. その他



自由意見 ○友達がいなかったが、大学生と付き合い友達を作ることができた。

○家ではYoutubeばかり見ていた子が、同級生や友達と公園で鬼ごっこなど体を動かし本人も楽しそう。

現在進行中及び今後予定の住民アンケート調査

10月下旬 鶴が丘一丁目町内会役員等対象に学生参加に関するアンケート調査実施

11月下旬 モデル活動・学生イベントに関する参加者等へのヒアリング調査実施

3 令和4年度事業の実施状況

令和4年度事業の実施状況について

【若者地域交流会議の開催】

モデル活動の企画・アンケート調査の検討時に学生と地域の若い世代との意見交流
○6月・7月・9月の3回 ○場所/鶴が丘集会所等 ○参加者/学生・子育て世代など計20名

会議内容

- モデル活動の取組みに対する認識のすり合わせ
⇒若い力を活かした活動を試みる出発点を見つけ出す
- 学生と子育て世代との連携と役割分担について
⇒出来る範囲で互いに無理なく継続できる関係づくり

〈良かった点〉

- ・子育て世代の苦勞も聞き助け合う大切さが学べた
- ・身近な顔見知りになり、継続的繋がりが出来そう



若者交流環境の継続を望む声も出、学生メンバーも尚絅・東北学院大学等にも拡大中